

随筆



私の趣味

特定医療法人アガペ会
北中城若松病院

涌波 淳子

「趣味を持っている人はボケにくい」とか「ストレスマネジメントとして夢中になれる趣味があるとストレスを発散させやすい」という言葉を聞いて、患者さんにも職員にも『趣味を持ったらいいよ。ボケにくいと言われているし、ストレスも解消しやすいし、人間性も広がるから』と言っているが、はたして、現時点での自分自身をふりかえると、「夢中になれるほどの趣味」があるとも言えず悩ましいところである。昔、学生時代は、本を読むのも好きだったし、映画も好きだった。旅行も好きで、実際に行けなくても、時刻表を眺めているだけでも楽しめた。仕事と育児に追われてしまった時から、そのゆとりがなくなってしまった。本当は、こんな状態ではいけないと思いつつも、なかなか、頭から仕事が離れない。「定年になったら一日中図書館にこもって・・・」とか「映画館で好きな映画をじっくり」とか「日本全土を列車旅行」などと夢をかけているが、実際には、その時に、気力・体力・知力が残っているか不安である。

さて、そんな私が唯一“至福の一瞬”を過ごせるのが、「猫との出会い」である。小さな頃から猫が好きだったが、小児喘息の私には、「絶対に猫は毒」と言われ、飼うことも触れることも禁止されていた。大学に入っても下宿ではもちろん飼えなかった。ところが、約8年前に主人が近くの海岸から子猫を拾ってきたのである。それこそ、「ねこっかわいがり」に可愛がった結果、今では5.5キロの巨大猫と化している。(写真参照)これが、私の「猫好き魂」に火をつけたらしい。可愛い猫を見ると拾いたくてたまらない。主人からは、「これ以上は拾っては駄目!」と言われているので、いつの頃からか、拾う代わりに野良猫の写真を携帯電話に撮るようになった。

現在、私の携帯電話には、約50匹の猫が入っている。携帯電話は便利である。ちょっと出る時も出張に行く時もいつも手元にあるから、チャンスを逃すことが少ない。今年は、子供の受験に付いて行った時に、6匹ほどゲットしてき

た。実は、猫の写真を撮るために『カメラ付き携帯』を買ったというのが、真相である。他の写真とは区別して「ネコレクション」というフォルダに入れて、時々眺めて楽しんでいる。パソコンも携帯電話も上手に使いこなせない私がこれだけできるようになったところをみると「好きこそもの上手なれ」という言葉は確かだなぁと思う。1年ほど前から、それらの猫に遭遇した時に、写真と同時に名前をつける楽しみが加わった。「西原サンエー エルザ (西原サンエーで遭遇した精悍な気品あふれる猫ちゃん)」「如月チビ (内地の2月の寒い朝出会った小さな猫)」「筑波ローソンオータム (筑波駅の近くのローソンにいた猫で落ち葉の中でなじんでいた)」などセンスがいいのか悪いのか分からないけど、名付けた本人にとっては、良いストレス解消、付けられた猫たちにとってはいい迷惑(餌もやらないので・・・)な趣味かもしれない。

昨年、「新研修医との交流会」で研修医の中に「野良猫の写真を撮るのが趣味」という研修医がいたので、最近では安心して「私の趣味は野良猫の写真を撮ること」と公表している。ある忘年会では、その話をしたら白けてしまったが、猫好きな人はどこかにいるもので、他の忘年会では「見せて見せて」と楽しめた。「趣味」とはこんなものかもしれない。できるだけ、他の方の迷惑にならないように気をつけているが、昨年、家族旅行中に野良猫だと思って、携帯を構えて追いかけていたら、近くの家の人が出てきて「うちの猫に何をすると怒られてしまったり、停まっている車の下に入った猫の写真を撮ろうとしたら、たまたま、中に人がいて、不審人物のように睨まれたりと、「夢中になりすぎない」注意も必要である。

願わくば、ボケてもこの趣味の範疇で楽しめるといいなあとと思っているが、最近、主人や私の夢の中に「朝、起きたら、家中に猫がいる」という“幸せ”を乗り越えて“恐怖”を感じる夢が時々現れるので、要注意である。そこらへんの野良猫を毎日拾って歩くおばあさんになってしまうかもしれない。ケアプランの中に「猫ひろいの癖があるので○匹以上になったら、さりげなく拾ってきた猫を返しておく」と書かれてしまいそうなる予感がする。

